

患者の皆さまへ

当院では、保有する既存試料・情報を用いて下記の研究を実施しております。このような研究の実施に当たっては、研究対象者の方に研究の参加を拒否する権利が保障されております。(オプトアウト)
この研究に関するお問い合わせなどありましたら、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

記

研究機関名	市立豊中病院
倫理委員会承認日	平成30/01/12
研究期間	平成31/03/31 まで
研究の名称	Simple febrile seizure plusに対するジアゼパム坐剤の有効性の検討
研究対象	2014年1月～2017年2月の間に月齢6～60か月で、一発熱機会内の24時間以内に2回の発作を起こし入院した症例
対象材料	診療記録
対象期間	2014年 1月～ 2017年 2月
研究の目的意義	<p>単純型熱性痙攣(simple febrile seizure, SFS)は乳幼児期の発熱時によくみられる予後良好の疾患であるが、発作時の患者の苦痛と家族の不安は非常に大きい。一発熱期間内で24時間以内に複数回SFSを繰り返すものをsimple febrile seizure plus(SFS+)と呼ぶ。SFS+の場合には入院で経過観察することがすすめられているが、入院後も発作を繰り返すことが多い。SFS+で入院した症例に対してジアゼパム坐剤を投与することで発作の群発を予防出来るかどうかについて検証した報告はない。</p> <p>SFS+で入院した症例に対してジアゼパム坐剤を投与した症例としなかった症例を比較し、ジアゼパム坐剤投与により入院後の発作が予防できるかどうかを検証する。ジアゼパムにより発作が予防できれば発作による患者の苦痛や過剰な検査を減らすことができると考えられる。</p>
方法	入院したSFS+の症例のうち、一発熱期間の24時間以内に2回発作をおこした症例を対象として電子カルテから後方視的に検証する。3回目の発作を起こした群と起こさなかった群に分けて、発作のリスク因子を検証する。
個人情報の取り扱い	本研究のデータは、研究目的の達成に必要な範囲を超えて取り扱わず、安全に管理する。研究結果から個人が特定されることはない。
問い合わせ先	市立豊中病院 小児科 茶山公祐 TEL 06-6843-0101